

やさしい病害虫講座 37

キュウリ、秋どり

木村 裕

家庭菜園ではどんな野菜を栽培されていますか？ たぶん「ならやま」で栽培していないトマトやキュウリでしょう。

その主役の一つであるキュウリは、5月の連休頃に苗を植え付けて初夏から真夏に収穫するのが一般的です。我が家でもご近所からとれとれの果実を頻繁にいただきますので最近では自家栽培を取りやめています。しかしお盆を過ぎるといづこの菜園でも株はへたばってしまうように供給も途絶えます。

そこで昨年のご近所さんが栽培しない時期にあえて栽培を試みました。その結果を紹介します。

8月初めに種をポット播きして、お盆のころに庭の片隅に3株植え付けました。根にこぶをつくるネコブセンチュウ対策として、各株のそばにはマリーゴールドの苗1株ずつ植え付けてセンチュウを寄せ付けないようにしました。

夏場のキュウリ栽培では葉に丸い茶色の斑紋が生じる褐斑病と白い粉がつくうどんこ病の発生が多いので、はたしてどうか？ (病害虫講座 16 参照)

予想通り、苗の植え付け後しばらくすると小さな褐色の斑紋が見つかったのでベンレート水和剤散布。これで一段落。

本葉が5~6枚開くころになると、葉の表面にミミズのように曲がりくねった細い白い筋が現れました。これはマメハモグリバエという小さなハエの幼虫が葉の中に潜って、トンネルを掘るように葉の組織を食い荒らしたものです。まあたいしたことはないだろうと無視。



草丈が私の背丈くらいになったころ、あちらこちらの葉に白いカビが生えているのに気づきました。うかつにもうどんこ病の初期の発生を見過ごしていました。しまった！油断していた！とあわててうどんこ病の特効薬（トリフィン水和剤）の散布となりました。防除効果はできませんでした。

一部の葉がしおれ、糸でつづられているのに気が付きました。葉裏を搜索して体に刺のような突起をもったアオムシを見つけて捕殺。これはウリキンウワバという蛾の幼虫です。



ハモグリバエは、少しは遠慮しようかという気配りもなく、10月になっても勢いは止まらず、被害はどんどん増え、葉には無数の白い筋が現れて白っぽくなり、果実にも傷がつくようになりました。あわてて殺虫剤散布となりましたが手遅れで虫の勢いを止めることはできませんでした。これは失敗。10月末に再びうどんこ病が発生しましたが、殺菌剤の散布でことなきをえました。

10月末にハモグリバエの被害跡を足掛かりにして斑点細菌病が発生し始めました。葉に黄褐色の小さな斑点が無数に発生します。この病気に対する特効薬はなく、お手上げ。ハモグリバエに対して甘い顔をしたのが間違いのもと。

キュウリの収穫は9月末から始まり、10月になると収穫は順調で毎日2~3本はとれ、11月まで続けました。さすがに11月も20日ころには寒さのため勢いが衰え、つるも活力をなくしてずり落ちるようになったものの、11月が終わってもまだ生きていました。よく頑張るね。

